

3. 安全安心なまちづくり を目指して



篠路中央保育園幼年消防クラブ結成記念式(平成26年7月11日、篠路中央保育園)

北区まちづくり協議会の取り組み

北区まちづくり協議会 座長 ^{うの}宇野 ^{としみつ}俊光

北区まちづくり協議会は、北区でまちづくり活動を行っている様々な団体が一堂に会し、まちづくりに関する課題や情報を共有し、互いに連携しながら取り組みをすすめていく場として平成22年2月に設立され、今年で5年目を迎える組織です。現在は、北区内の11連合町内会、社会福祉協議会、民生委員児童委員協議



会やNPO法人など様々な分野で活動する48の団体で構成されています。

発足以降、「防災（大地震への備え）」を大テーマとし、地震に関する専門家や、東日本大震災において大変な被害を受けられた南三陸町の方をお招きし講演会を開催したり、実際に地震が発生した際にはどのように行動したらいいのか、どのように避難所を運営したらいいのかなどを話し合うワークショップを開催してきました。

今回は、そうした北区まちづくり協議会の活動をご紹介します。

【まちづくり協議会の活動】

平成26年度は8月と11月の2回、全体会を開催しました。

1回目の全体会は、災害発生時の行動や、避難所の運営についての理解をさらに深めるため、より実践的な取り組みを行っている方からお話をお聞きしたいと考え、新潟県小千谷市から「NPO法人

防災サポートおぢや」の風間久司さんを講師に迎え、「災害に負けない地域づくり（中越大震災から学ぶ）」と題した講演会を開催しました。風間さんは平成16年10月に新潟県小千谷市本町の町内会長と自主防災組織の会長を務められ、現在は小千谷市自主防災組織連絡協議会の会長を務められるなど、実際の被災体験に基づいた実践的な地域防災への取り組みを進めておられる方です。

講演会では、映像や写真などを見ながら、実際の被害の発生状況や、開設された避難所の様子についてお話いただいたのち、そういった大災害発生の際には、「自助・共助」の精神で助け合わなければいけないこと、そのためには普段からの地域のつながりが大変重要となってくること、また、地震の発生による建物の崩壊を防ぐためには、建物の耐震化を進めることが大変重要であることなど、大変勉強になるお話をお聞きすることができました。



2回目の全体会では、インタラクショナル研究所の安田睦子氏を講師にお迎えし、避難所運営ゲーム(HUG)を実施しました。避難所運営ゲーム(HUG)とは、実際に避難所となる学校の図面を使い、様々な出来事や、次々と訪れる避難者にどのように対処したらいいかといった避難所の運営を、参加者で話し合いながらゲーム形式で体験するというものです。

冒頭、安田さんからゲームについて説明をいただいたあと、5～6人のグループに分かれ実際にゲームを体験しました。最初は、少しぎこちないグループもありましたが、ゲームを進めるにつれ、例えば「避難所に大型犬を連れてきた家族がいる」や「インフルエンザの疑いがある人が避難してきた」といったことにどのように対処したらよいかなど、次第に議論が白熱し、どのグループも時間が足りなくなっていました。限られた時間ではありましたが、実際の避難所の運営を疑似体験することができ、大変勉強になりました。

【北区まちづくり協議会の活動を受けて】

私が住む北区の北地区には、町内会や教育、福祉、商業関係団体、老人クラブなど72の団体で組織される北地区コミュニティネットワーク会議(Cネット)という組織があります。この北地区Cネットでは、北連合町内会で進めている「防災・福祉マップ」の作成をCネット全体で共有する勉強会を開催したり、札幌市の危機管理対策室から講師を迎え、「災害・危機に備えて」と題した防災研修会を開催したりするなど、北区まちづくり協議会で学んだ災害発生への備えを、地区内で広く浸透させようと活動しています。



また、北地区以外の地域でも、実際に避難所となる学校を会場とした防災訓練を実施している地域があったり、避難所運営ゲーム(HUG)を開催しようとしている地域もあるなど、区内の各地域で防災への取り組みが熱心に進められていると聞いています。

【今後の活動について】

これまで北区まちづくり協議会は、発足以降、「防災」の中でも大規模地震に対する備えについて勉強してきました。しかし、平成26年9月に発生した大雨による土砂崩れや道路冠水などの被害を目のあたりにし、備えなければならない災害は、地震だけではないということを改めて認識しました。

そこで、平成27年度のテーマについては、引き続き「防災」としつつ、地震だけではなく、大雨や洪水、大雪など他の災害についてもテーマに加え検討していきたいと考えています。

今後も、北区まちづくり協議会で学んだ成果を、参加団体みんなが共有し、それを各団体が持ち帰り、それぞれの地域でも連携して取り組んでいく、そういった連携の輪が、今後も広がっていけば、たいへん素晴らしいことだと思っています。

○お問い合わせ

北区市民部地域振興課まちづくり推進係
TEL.011-757-2407

3. 安全安心なまちづくりを目指して

いざという時の共助

～太平百合が原地区防災訓練～

太平百合が原連合町内会 副会長 **あおやぎ 青柳** **ふみただ 史匡**

【はじめに】

太平百合が原まちづくり協議会では、平成 25 年度から災害時を想定し、基幹避難場所になる小学校の体育館を会場に、地域の住民が一堂に会する避難場所の開設や運営等の防災訓練に取り組んでいる。

《実施状況》

- ・平成 25 年 10 月 4 日（金）12:30～16:20
会 場 太平南小学校体育館
参加者 地域住民 119 名、児童 320 名
- ・平成 26 年 10 月 24 日（金）12:30～16:00
会 場 太平小学校体育館
参加者 地域住民 100 名、児童 438 名

【防災訓練実行委員会と参加体制づくり】

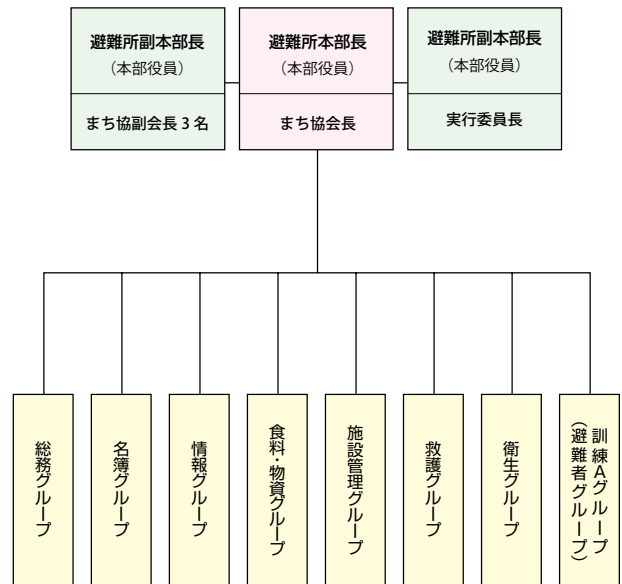
委員会の構成は、まちづくり協議会の役員と町内会・自治会から各 1 名（原則会長）で、防災訓練の概要や運営体制、グループ編成や動きなどを協議し、事前準備や活動グループのリーダー的役割を担う。参加住民人数の割当ては、会場校の校区にある町内会により多く割当ててる。



鈴木会長（中央）あいさつ

【避難場所運営体制とグループ編成】

避難場所のグループ編成は、平成 25 年 3 月に札幌市が策定した「避難場所運営マニュアル」に準じ、8 グループ編成としている。ただし、マニュアルにある「ボランティア統括グループ」は「避難者グループ」とし、初期の段階で効率的な訓練になるよう工夫している。（下の表を参照のこと）



訓練 B 避難所運営体制 グループ編成表

【訓練の主な内容】

訓練 A 「避難者グループ」は、児童と一緒に避難行動をし、体育館に戻ってからは、消防署員の指導で AED などの取扱い、ロープ結索、防災資機材使用などをローテーションして実体験する。

訓練 B 体育館での避難場所の開設・運営を、各グループリーダーの指示のもと、各業務内容やグループ相互の連携を実体験する。

共通訓練 食料・物資グループが担当した炊出し（アルファ米）を施設管理グループが作成した居住ブースで試食する。



太平小児童と避難訓練



居住スペースでのアルファ米試食



リーダー会議



児童に向けた防災講話



防災資機材取扱訓練

【会場校との連携】

会場校の小学校とは、事前にこの訓練の趣旨を説明し、教育課程に位置付けている「避難訓練」と抱き合わせて実施できるように、具体的な内容や要領について協議して共通理解を図った。

その結果、平成25年度は高学年が施設管理グループと一緒に居住スペースづくりを体験した。平成26年度は児童のグランドへの避難や津波を想定した3階への二次避難を地域住民と一緒に体験した。また、高学年（5・6年生）を対象に「72時間を耐え抜くために」の講話を組み込んだ。

【取り組みを振り返って】

参加者からは、地区で連携し合う訓練に対し、いざという時に取り組まなければならない内容や心構え、準備などが総合的に理解できた、近隣町内会と顔が見える連携ができると一定の評価を得ている。一方で、事前の準備が整い過ぎる傾向があるので、事前準備は必要最低限にとどめ、地域住民に臨場感を持たせる工夫が必要であること、多様な避難者への対応、冬期間を想定する訓練など、幅広く訓練内容を工夫していく必要がある。

平成27年度は、百合が原小学校を会場とした訓練を予定している。地区内には基幹避難場所となる小学校が3校あることから、今後も3校でローテーションさせ、継続実施を検討していきたい。

○お問い合わせ

太平百合が原まちづくりセンター
TEL.011-771-9180

3. 安全安心なまちづくりを目指して

とくとく教室の開催

～詐欺を防いで、健康寿命を伸ばそう～

新琴似西連合町内会 会長 伊藤 ちょうはちろう 長八郎

平成26年10月16日(木)、双葉福祉会館(新琴似9条14丁目)を会場に、当連合町内会が主催する「とくとく教室」を開催しました。

「とくとく教室」は、～守ろう現金! 守ろう元気!～と、ちょっとドッキリとするテーマで実施。オレオレ詐欺や送り付け商法などの特殊詐欺の防止と、健康を守る

ための秘訣を伝授する講座で、約50名の参加がありました。

当日は冒頭で、札幌北警察署生活安全課の係長様から詐欺被害の現状を含め防犯の話をしていただきました。(幸いなことに、新琴似西地区では、特殊詐欺の被害は出ていないとのことでした。)

準備体操で軽く汗を流した後、詐欺被害と特定



健診などの健康の秘訣に関する○・×式のクイズを行い、参加者は会場を右へ、左へと自分の答に合わせ移動。ちょっと優しかった設問もありましたが、結果に一喜一憂の表情を浮かべていました。その後、家庭でも手軽に出来るラダー運動(足踏み運動)を詐欺防止の替え歌のリズムに合わせて行い、2つのトクを習得しました。



【防犯活動等の取り組み】

新琴似西地区は、防犯や交通安全に対する取り組みが熱心な地域です。

交通安全の街頭啓発や指導活動はもちろんのこと、地域安全・安心パトロール隊「みつば隊」を発足させ、地域内の防犯パトロールや年金支給日には、金融機関前での詐欺防止の声かけ運動などを行っています。また、毎年11月には、当連町が主催し、警察署と消防署の協力を得ながら、地域内の関連団体と連携して、地域内を巡回する合同パトロールを実施しています。

また、平成26年2月、3月には、「振り込め詐欺等防止検定」を高齢者を対象に初めて開催しました。この検定は、埼玉県警浦和警察署が考案したものを参考に、新琴似西バージョンとして改良を加えたものでした。

【地域の特性と地域保健活動】

一方で、新琴似西地区は北区内でも老年人口比率が約30%とトップであり、地域の保健や福祉のより一層の充実が求められています。幸いなことに、平成26年度から札幌市の地域保健福祉活動の充実に向けた先行地区として指定され、北区役所の保健師さん2名が地区専任となりました。地区の状況をよく知る保健師さんが専任でいる安心感はもちろんのこと、地域で抱えていた課題をピンポイントで解決するなど、着任早々、成果を上げられました。また、保健師さんの地区分析によると、当地区の特性として、元気な高齢者が多い……高齢化は進んでいるが、介護保険の利用者は少ない……、血圧・肝機能の値が心配、安心して育児が出来る環境にあるなどの結果が出ています。

【今後も進化させたいとくとく教室】

元気なお年寄りが多い当地区で、健康で健やかに生活を営んでいただきたい、そんな思いから、「振り込め詐欺等防止検定」に家庭でも簡単にできる健康体操も取り入れた、一挙両得（トク）の「とくとく教室」が生まれました。毎日、家庭で気軽に健康体操を行うと、詐欺防止と健康の秘訣に関する○×クイズを思い出し、～守ろう現金!守ろ



う元気!～の状態を維持していただければと思います。

とくとく教室の開催にあたっては、当地区を管掌する、北警察署、北区及び新琴似西地区社会福祉協議会、新琴似西まちづくりセンター、北区介護予防センター新川・新琴似西、北区第3地域包括センターの皆様のご協力、ご支援をいただきました。加えて、当地区専任の北区役所の2名の保健師さんに多大なご協力をお願いしました。関係したすべての皆様にお礼を申し上げます。

今後もこの「とくとく教室」を進化させ、色々な分野での展開につなげていきたいと考えておりますので、皆様方のご協力、ご支援をよろしく申し上げます。

余談ですが、当新琴似西地区専任となりました、区役所の保健師さんの名前が「松下さん・松岡さん」と言います。慶事のシンボルとして「松・竹・梅」を用いますが、最上級の松の字が入るお二人が、当地区の専任。地域保健活動の充実も「マツ・マツ」コンビで、一安心。これからもよろしく申し上げます。

○お問い合わせ

新琴似西まちづくりセンター
TEL.011-762-8767

3. 安全安心なまちづくりを目指して

企業と連携した防災啓発の取り組み

～安心して暮らせるぬくもりの街を目指して～

北区市民部総務企画課

【はじめに】

北区では平成25年8月22日に、北海道コカ・コーラボトリング株式会社と連携協定を結びました。これはそれぞれが持つ資源を有効に活用し、災害に備えることで、北区が進める安全で安心して暮らせるまちづくりをさらに推進していこうというものです。

連携協定締結後、両者は、東日本大震災以降の区民の防災への関心の高まりを受け、互いの協力により、防災意識の啓蒙・周知活動を中心に様々な取組を行ってきました。その主な取り組みを紹介します。

【防災啓発ステーションの設置】

平成26年3月、毎日多くの人を訪れる北区役所の玄関に防災キットや備蓄品などを展示する「防災啓発ステーション」を設置しました。これは、区民に日頃からの用意の重要性を意識してもらうとともに、どのようなものを用意しておけば、いざという時に役立つかを知ってもらえるよう工夫しました。

まず、啓発パネルでは、災害発生時の被害を最小限に食い止めるため、地域での自主的な防災活動が重要であり、町内会組織を活用することが効果的であることを示しました。次に、災害時の役割分担が一目でわかるよう、日頃の町内会行事において活用できる防災活動の工夫を図で紹介しました。また、近年多発している大雨による被害についても啓発を行いました。過去の被害事例を示すとともに、札幌市においても起こる可能性のある被害について示し、大雨警報が発表された場合や浸水・川の氾濫が発生した時に注意すべき点をわかりやすく伝えました。

この他、北海道コカ・コーラボトリングの防災



への取り組み、また、連携協定に基づく取り組みの今後の方向性についてもパネルに掲載しました。また、災害に備えて家庭で用意しておくべき災害時の準備用品をリストにまとめ、一目でわかるようにしました。



【災害対策としての避難所マップの作成、

まちづくりセンターへの備蓄品の配備】

連携協定に基づき、北区の避難所マップを作成し、平成26年8月から北区役所、まちづくりセンター、地区センターで配布しています。

基幹避難所と地域避難所を色分けしたマップは、いざという時の避難場所を確認するのに便利で、

区民からも多くの問い合わせをいただいています。また、備蓄品や非常持ち出し品のチェックリストを掲載し、日頃から防災を意識できるようにしました。さらに、災害に備える手助けとして、備蓄会員の募集紹介もなされています。

また、連携協定の締結を機に、北海道コカ・コーラボトリングからは、非常用飲料水としてペットボトル入り天然水の提供がありました。平成25年12月から順次、北区内の各まちづくりセンターに配備されており、地域の災害対策に大きく貢献しています。



【防災啓発カレンダーの配布】

平成25年度から防災情報を書せた啓発カレンダーとして5,000部製作し、区民へ配布しました。

カレンダーには、毎月北区内の様々な場所の風景写真を掲載するとともに、防災情報として震度による揺れの違いや備えおくべき物品のリストなどに加え、災害に遭う前に家族との連絡方法などを決めておく「家族防災会議」のすすめなど、災害への備えに役に立つ情報を掲載しました。家庭

で毎日目にするカレンダーに防災知識を盛り込むことで、防災意識を高めてもらうことがねらいです。

カレンダーの掲載内容については、連携協定に基づき、共同で編集・校正を行いました。平成26年度も製作し、北区役所及び北区内の各まちづくりセンターで配布しており、区民からは大変好評です。



【今後に向けて】

北区では今後も、現在の取り組みを継続し、区民の防災意識の向上に努めていくとともに、北海道コカ・コーラボトリング株式会社をはじめとした企業と連携することで、民間企業の強みを生かして、災害に強い、安心して暮らせるぬくもりの街の実現に取り組んでいきます。

○お問い合わせ

北区市民部総務企画課
TEL.011-757-2403

3. 安全安心なまちづくりを目指して

コラム⑤ 北区で実施した防災の取り組み

平成26年9月11日に、初めて大雨特別警報の発令を受け、昭和56年以来、33年振りに災害対策本部が設置され、北区は該当しませんでした。札幌市内6区で避難勧告が発令される事態となりました。

このように、今後は、今までに経験したことの無いような災害も想定されることから、防災に対する意識を日頃から高めておくことが非常に大事なことであり、町内会等における防災訓練などが有効な手段のひとつとなってきます。

ここでは、昨年の北区での防災に関する取り組みについて、3点ほど紹介したいと思います。

1 北区防災訓練

北区と新川さくら並木連合町内会との共催により、新川中央小学校にて防災訓練を実施した。町内会と小学校児童による避難所生活を想定したダンボールでの間仕切り作成、また、応急担架の作成後、ケガ人を運び、三角巾による応急手当を施す訓練などを行った。

当訓練を通じ、町内会と小学校児童との交流が図られ、また、子供たちは、緊張感の中にも楽しんで参加している雰囲気もあり、スムーズに訓練を行うことができた。



2 災害対策本部シミュレーション訓練

大災害が発生した際に設置される災害対策本部の運営について、訓練を行った。

大雨洪水警報の発令に伴い、篠路川が増水し道路の冠水が発生したとの想定のもと、北区災害防止協会や輸送等の協定を結んでいる暁交通株式会社も参加し、現場である篠路川やその近辺における状況の通報、土のうの搬入やポンプでの排水、また、本部において開設すべき避難所の検討など、より実践的な訓練を実施した。

実際に災害が発生した場合の事前訓練として、具体的な流れを確認することができた。

3 DIG（災害図上訓練）

DIGとは、地震などの災害をイメージしながら、災害時の対応について意見を出し合い、避難経路、避難場所を地図に書き込んでいくものである。

約2時間もの間、防災について考える機会というのは中々無いことで、受講した参加者からは、改めて、災害に対する危機意識や備えの大切さを再認識できたとの意見が多かった（単位町内会を対象として3回実施）。

町内会、学校、事業所を巻き込んだ様々な訓練を通じ、各々の災害時における役割を再認識することで、地域における防災力の更なる向上へつながっていきます。

また、札幌市も、各職員が災害時に適切な行動がとれるよう、災害対策本部訓練などを通じ、自分の役割をしっかりと把握しておく必要があります。

今後も、防災訓練へ積極的に参加するなど、一人一人の防災意識の向上が、いざという時の備えとなります。

【お問い合わせ】 北区市民部総務企画課地域安全担当係 757-2403